

# 新たな地域農業の担い手との交流を通じた担い手育成

## ～千葉県指導農業士会千葉地区会への支援～

### 1 活動のねらい

千葉県指導農業士会千葉地区会（令和5年度現在、会員28名）は地域農業の振興や後継者育成の活動に取り組んでいます。令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年と同様の地区活動を行うことはできませんでしたが、令和4年度から徐々に会員同士が連携・協力して地区活動を再開しました。農業事務所ではこの活動を支援し、青年農業者や新規就農者と指導農業士との交流を進め、担い手育成に努めました。

### 2 課題の背景

千葉県指導農業士会千葉地区会では自己の経営・技術を向上させるための研修会の開催や、新規就農者、農業経営体育成セミナー受講生、農業高校生等を対象に農業の担い手の育成を行ってきました。新型コロナウイルス感染症の収束を契機に地区活動を再開し、青年農業者と篤農家である指導農業士とが交流する機会を増やしました。

### 3 普及活動の経過・結果

#### （1）千葉県立農業大学校生の派遣実習の受入れ支援

千葉地区会の農業後継者の育成活動の一つである千葉県立農業大学校の学生の派遣実習の受入れは、露地・施設野菜、果樹、花卉、畜産等、幅広い経営類型の指導農業士が協力し、学生の指導に当たっています。過去の派遣実習受入れでは、卒業後に指導農業士が営む法人に就職する事例もみられるなど実習の成果もあらわれています。農業事務所では受入希望調査、千葉県農業大学校との調整・打合せを行い、実習が有益なものになるよう支援しております。

#### （2）市原高等学校園芸科の視察受入れ支援

千葉県立市原高等学校園芸科2年生の生徒（毎年20～15名）を対象に、職業として農業を考えることを目的として千葉地域の農業を知る研修会を開催しています。

令和5年度は前年度に引き続き、千葉地域の指導農業士の経営を訪問し、先進的な技術や経営を学びました。参加した生徒たちからは「学校ではみられない施設を知り、最新の農業をみる事ができた」等の感想が聞かれました。



写真1 指導農業士の説明を聞く生徒たち

### (3) 新規就農者等との交流会の開催支援



写真2 指導農業士と交流を深める参加者

日頃、指導農業士と新規就農者の育成について意見交換する中で、「地縁が少ない新規参入者が定着するためには地域の農業者等との交流が必要だ」「減少する農業者を維持するためにも新規就農者は重要になる」との意見が聞かれました。そこで、新規就農者の生産技術の向上と早期の経営安定に資することを目的として、新規就農者と指導農業士等との交流会を開催しました。交流会には千葉県指導農業

士会千葉地区会会員、千葉県農業士協会千葉支部会員、農業経営体育成セミナー受講生（以下、セミナー生）、新規就農者等、総勢 40 名が参加しました。

前半は、民間企業が取り組んでいる微生物資材の開発、栽培支援システム、農作物の海外輸出についての紹介があり、後半はセミナー生や新規就農者との意見交換をしました。セミナー生や新規就農者から自己紹介や日々の悩み、疑問に思っていることなどの発言に対し、指導農業士や農業士からアドバイスをする光景がみられました。参加した新規就農者等からは、「地域の先輩と話す機会が得られた」「またこのような会に参加したい」等の感想がありました。

## 4 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、地区活動は再開され、視察、研修会、交流会等、人と人との集まる催しができるようになりました。しかし、以前と比較するとこれらの活動への参加者数は減少しているのが現状です。今後、地区活動を活発にするために会員との連携を密にし、地域農業の振興や担い手の育成に寄与できるよう支援していきます。

5 担当者 市原グループ 小村享史  
八千代グループ ◎原浩文

## 6 協力機関

千葉市、習志野市、市原市、八千代市